

<< 注 意 報 >>

岡 病 防 第 18 号
平成26年 9月 5日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察注意報第4号を下記のとおり発表したので送付します。

平成26年度病虫害発生予察注意報第4号

平成26年 9月 5日
岡 山 県

病虫害名 **イネ紋枯病**

- 発生が予想される地域
中・南部地帯（穂首出揃期までの中晩生種および晩生種）
- 発生が予想される時期
9月上旬以降
- 予想される発生量
多
- 注意報発表の根拠
 - 本田での紋枯病の初発生時期は平年（7月第3半旬）よりやや遅い7月第5半旬で、その後の病勢進展は平年よりやや低く推移したが、8月中下旬に急激な病勢進展が見られ、今後の発生圃場率の上昇および病斑の上位葉への進展が懸念される。
9月2～3日の巡回調査（中南部地帯の20地点、59圃場）によると、**南部地帯の発生圃場率は74.3%（平年37.9%）、発生程度「中」以上の圃場率は17.1%（平年7.9%）とかなり高く、中部地帯の発生圃場率は83.3%（平年49.2%）、発生程度「中」以上の圃場率は37.5%（平年11.4%）とかなり高い。**
*発生程度「中」：発病株率が50%以上で、病斑が第3葉鞘まで認められる。
 - イネの茎数は平年並～やや多であり、本病の発生をやや助長する条件と考えられる。
 - 広島地方気象台8月28日発表の季節予報では、向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないとされているものの、大気的不安定な状態が続くと、にわか雨などによって病勢が急激に進展する可能性がある。
- 防除対策及び防除上の参考事項
 - 出穂後は防除効果が劣るものの、穂首出揃期までに粉剤、液剤、水和剤を散布すれば、ある程度の防除効果が見込まれるので、速やかに防除を行う。
 - 紋枯病による減収被害は、第3葉鞘より上の葉鞘に発病した場合に大きくなる。病斑が既に第

3葉鞘以上に認められる場合は速やかに防除を行う。

(3) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>) で確認できる。

表 主な防除薬剤（単一成分の薬剤のみを記載）

薬 剤 名	農薬使用基準		
	使用時期	使用回数	希釈倍率・処理量
バリダシン液剤5	収穫14日前まで	5回以内	1,000倍
バリダシン粉剤DL	収穫14日前まで	5回以内	3～4 kg/10a
モンカットフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	1,000～1,500倍
モンカットフロアブル40	収穫14日前まで	3回以内	2,000倍

上記の成分を含む混合剤を用いる場合もラベルをよく読み農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど安全・適正に使用するようお願いします。

(参考) この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。